

祝ダイヤモンド婚

結婚六十年を迎えたのは、神門の小侯平さん・はるさん夫婦と朝日馬場の平井尚俊さん・りょうさん夫婦の二組です。

この二組の方々に、健康法や二人で仲良く暮らす法などを聞いてみました。

「趣味をもつこと」

小侯さん夫婦は、大正十一年五月十九日にいとこ同士で結婚しました。昔では、あまり珍しくなかったようです。



はるさん（八十一歳）は、足がやや不自由なだけで他には具合の悪いところはないが、神門の自宅をはなれる機会はほとんどないそうです。

私が「八朔'82 in つる」の実行委員会のメンバーになって強く感じたことは、「青年の手による手作りのおまつり」だな、ということでした。

初めは、実行委員会に出席するメンバーは少なく（私もその一人でしたが……）一時はどうなるのかと思っていました。

しかし、九月一日祭本番に近づくにつれて新しいメンバーも加わり、昨年よりもりっぱなステージをつくることができました。

その過程には「都留をよりよいまちにしよう、文化を育てよう」とする青年の若い力、そして情熱がありました。

学生は、どうしても市民の方々と交流が少なくなりがちです。

うです。

平さん（八十四歳）は、大の釣り好きで「いつも川で釣りをしたものだが、今では川がきたなく足場が悪く、とても釣りが出来な」と、ここでも河川のごよれ、ゴミ問題がでました。

平さんの趣味は多彩で、釣りの他は俳句・書道といろいろあるが特に書道に関しては、右手、左手両方で書くことが出来る特技の持主です。

「ちょっとした夫婦げんかは、毎日のようにする」といい、これがストレスの解消になり、二人が元気で仲良く過せるコツかも知れません。

市民の方々にとっても、学生は遠い存在でしょう。しかし都留をただ単に「大学があるまち」としてだけとらえるのではなく、市民としての生活の場、いってしまえば、「第二のふるさと」として、市民の方々との交流を大切にしたいと私は考えます。

ですから、「八朔'82 in つる」には学生が積極的に参加する。また大学の学術文化の祭典として「桂川祭（10月30日～11月2日）」には多くの市民の方々がいらしてくださることを願っています。

市民と学生との交流を密にして都留文科大学の目標である「地域に根ざした大学」をつくらっていくために、私も一役を担いたいと思っています。

「畑仕事をすること」

平井尚俊さん・りょうさん夫婦は、大正十一年八月五日に結婚して六十周年目を二人元気で迎えました。

この間子供十人と、子室に恵まれ、今では孫二十一人・ひ孫十二人に囲まれ悠々自適な生活です。

尚俊さんの健康の秘けつは、「畑仕事をすること」午前中一時間、午後一時間毎日体を動かし汗を流す。しかし、雨が降る日は退屈でテレビを見ることぐらいなので、雨はきらいだという。

若い頃は、一日に焼酎を二升も飲むほど好きだったけど、健康のために正月とか祭りとか、なににか事がないと飲まなくなりました。

尚俊さん（八十六歳）りょうさん（七十七歳）いつまでも、お二人で仲良く、元気で過ごしてください。



金婚おめでとう

結婚五十年対象者

谷村地区	宇佐美 章・房子	上谷二丁目
堀内	保・ふみ子	上谷二丁目
門原	仁良・年子	上谷四丁目
佐々木	教道・春子	中央三丁目
宮本	昇・あつ子	中央三丁目
星野	清一・とら	下谷二丁目
平井	勇・なを	下谷三丁目
田辺	邦治・エン	下谷四丁目
西尾	武・与志子	つる一丁目
三吉・開地地区	山口 彪治・つる子	法能
幡野	義夫・以せ	下戸沢
萩窪	光武・ゆみ	上細野
程原	博・満寿	熊井戸
程原	計一・絢子	熊井戸
程原	登曜・とみ	熊井戸
小林	正明・すみ系	菅野
東桂地区	平井 梧郎・とら	上夏狩
志村	勝美・はせ子	上夏狩
志村	善興・せん	宮下
宝地区	武田 秀三・ぬい子	中津森
武井	賢次・政子	下大幡
岩村	幸作・くめ子	上大幡
禾生地区	赤沢 省三・とくじ	四日市場
長田	秀次・たきの	井倉
矢野	茂・節子	井倉
魚田	健・よし江	古川渡
近藤初太郎・ヨシ子	川茂	

計二十八組



学生として

「八朔'82 in つる」に参加して

都留文科大二年 土屋 博